

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 42

2019年10月発行

企画展

開館10周年記念展示～後期～

2019年度アンケート結果

10周年と半年を経て

じゅっしゅうねん
寿周年：
：

開館



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十六)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

家紋
根付
つぼつぼ
令和元年(2019)秋季企画展
瓦
いしろう
刀装具
2019年
10/26(土) ▶ 12/26(木)
象牙
茶道具
休館日: 火曜日、11/6(水)・25(月)
[開館時間] 9:00~17:00(入館は16:30まで)
[入館料] 一般250円、高校・大学生120円、中学生以下は無料
※11/16(土)・17(日)は「関西文化の日」により入館無料
思てるより地味～な
展示です。

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0064 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL:072-992-5311
<http://kyu-uedakejutaku.jp/> [指定管理者:NPO法人HCALD]

秋季企画展「植田家でみる意匠(デザイン)」

2019年10月26日(土)～12月26日(木)

旧植田家住宅の建物や美術工芸品、民具等の「意匠」について展示します。

[家紋入り道具、つぼつぼ文様、茶道具、刀装具ほか]

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 企画展
開館 10 周年記念展示～後期～
- 6 夏休み工作体験
土蔵でクラフト
- 7 旧家で観月会（夜間）
& かまどで月見団子作り
- 8 2019年度アンケート結果
10周年と半年を経て
- 10 関西文化の日プラス「蓄音機で回想法！」
- 11 四会所だより(22) -平野屋新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ④
- 13 植ちよピ(冷やし旧家～夏のお茶会、秋のイベント)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十六)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



ギャラリーにて
バックナンバー
配架中※

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

表紙写真

じゅろうじん おか ゆうがく
《寿老人図》岡 熊岳 [1762-1834]

江戸時代中期～後期の文人画家。寿老人の正面姿を描く本図は、畳の目が残っていることから、座敷などの宴席で即興に描かれたものと考えられる。本作を展示した「開館10周年記念展示」は4・5頁を参照。



- ・ 有名人の書
- ・ 浮世絵
- ・ 大坂画壇
- ・ 絵巻 など



藤澤南岳の掛軸、書籍、写真、扁額



企画展

開館10周年記念展示

後期

2019年

7月3日(水)～9月1日(日)



肉筆浮世絵と浮世絵版画



勝海舟の書(三幅)



歌川国芳の浮世絵(左:鷹狩り図、右:忠臣蔵)



木戸孝允の扁額



西郷隆盛の書

「名品」を展示。



企画展 開館10周年記念展示

平成21年(2009)年5月6日の開館から10年を迎えた安中新田会所跡旧植田家住宅では、これを記念し、5月17日(金)～9月1日(日)までの約4カ月に渡って「開館10周年記念展示」を開催した。過去10年分の企画展を振り返る節目の周年展示として、これまでに展示した収蔵品の中から選りすぐりのものを一堂に公開し、また、かつて主屋の座敷に飾られていた扁額も実際の場所に展示し、往時の植田家の風景を再現する試みも行なった。

・後期展(展示室)

「前期展」に続き「後期(7/3～9/1)」では、これまでの企画展に登場した中でも、とくに「有名なもの」をテーマに、幕末明治の書画類を中心に、近世・近代の大坂画壇の掛軸、浮世絵、5周年記念展で初公開した絵巻、やきもの、茶道具類、装飾品など、およそ30点を展示した。いずれも名品揃いで、「この人、知ってる」「何で植田家にこんななんあるんやろ」「すげえ」など、来館者の反応も良好であった。さらに前期から継続して座敷で行なった特別展示「往時の植田家」も好評で、「ずっとこのままの状態」で展示し

おおさか画壇



大坂(阪)画壇の名品を一堂に展示



愛石《虎図》

特別展示「往時の植田家」



伝 岡田米山人《山水図》(座敷 1)



「やきもの」の名品



岡熊岳《寿老人図》



鼎春嶽《山水図》

お宝との再会



10代旦入作「赤染嶋台茶碗」



12~13世紀の「高麗青磁」



茶道具の名品
(茶杓、香合、棗)



「日光東照宮祭礼図巻」

ててほしい」という声もあった。

・名品紹介

後期展の目玉として、まずは何といっても、幕末明治で有名な西郷隆盛、勝海舟、木戸孝允(桂小五郎)の書で、勝海舟については初公開を含む三幅の掛軸を展示した。また幕末から大正にかけて大阪に様々な功績(足跡)をのこした藤澤南岳(通天閣の命名者としても有名)の書や関連資料も多く植田家にのこる。

書画類では、河内木綿の絵幟を含めた大坂画壇関連の名品を多数展示し、今回は特に展示にあわせた「10周年記念グッズ」も販売した。

その他、浮世絵では、人気の絵師・歌川国芳の作品2点と前回の調査で見つけた肉筆浮世絵を展示。そして「開館5周年記念展」植田さん家の名品・お宝」で登場した千家十職の茶道具の名品(お宝)、高麗青磁の皿、「日光東照宮祭礼図巻」も再び登場し、まさにお宝との再会となった。

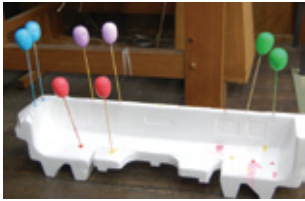
10周年の記念に相応しく、通常より豪華な展示となったが、植田家がのこしてきた歴史や文化とその想いの一端に触れることができた。次回15周年もお楽しみに。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

第1回(8・10)

「きゅうちゃん人形(たまご型)」

旧植田家住宅のマスケットキャラクター「きゅうちゃん」を、工作や緩衝材にも用いられるたまご型の発泡スチロールを使って作りました。まずはアクリル絵の具で素材に着色し、乾かす間にフェルトで耳や尻尾、手足となるパーツを作ります。色は2度塗りのため時間がかかりますが、あとは組み立てて、好きな表情と動きを付ければ完成。撮影会が意外に盛り上がりました。



着色した発泡スチロールを乾燥



フェルトで各パーツを作る

AM _____ PM



背景ボードの前で撮影会

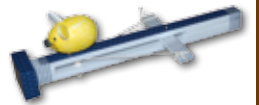
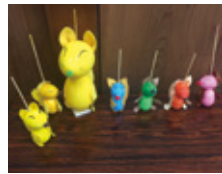


もうすぐ完成!?

夏休み工作体験!

どぞう 土蔵でクラフト

身近な素材を使って小物やおもちゃを作ろう!



2019年 8月10日(土)「きゅうちゃん人形」・24日(土)「回りねずみ」



テープで装飾し、本体を組み立てる



個性的な“回りねずみ”が完成

AM _____ PM



「回った、回った！」



意外に苦戦の穴あけ作業

江戸時代のからくり玩具「回りねずみ」を、あまつた廃材パネルと、第1回と同じたまご型の発泡スチロールを利用して作りました。回りねずみは、たこ糸の仕掛けと連動した横板を動かすと、本体上のねずみがぐるぐると回転する昔ながらの伝統玩具です。単純ながらもいつまでも遊び続けられます。説明どおり順番に組み立てると、だれでも簡単に作って遊べます。回った子も回らなかった子も色々で、これもまた一興。

第2回(8・24) 「からくり玩具“回りねずみ”」

9/14 旧家で観月会(夜間)

昨年好評だった観月会。今年もぜひしたいやろう!と企画しました。果たして月は見えるのか?とドキドキしながら、昨年も来ていただいた「許麻神社雅桜会」のみなさんの雅楽演奏がスタート。笙しょうに龍笛りゅうてき、筆簾しじりき、太鼓と心地よい音に巫女舞。：休憩中、希望者は楽器を近くで見たり、触らせてもらったりと、各々演奏者の方と楽しく交流もさせていただきました。

9/15 かまどで月見団子作り

今年小学生以上に限定した「月見団子作り」。できるだけ大人は手伝わず、3班に分けたグループで、各々一番年長の子をリーダーに進めていきました。

子どもたちが食べたことがあるのは、やっぱりあんこのついた月見団子。「今日は絵本に出てくるまん丸の団子を作るよ。」真剣に説明通りに作業する子どもたち。特にリーダーは、ちゃんと全員が体験できているか見ながら、最後は自分が

ずらりと掛けられた「月の掛軸」も心

ゆくまで鑑賞していると、「あー、すごくいい月!」。雲の合間に美しい月が顔を出してくれました。皆慌てて、二階へ上がって見る人、庭の床几から見人、ぼつちりスマホで撮ってニマリする人：それぞれに楽しんでいました。もちろん、美味しいお団子とお抹茶も楽しみ、お腹も心も満月のようにまあるく満足した一夜でした。

チェックする責任感のある仕事っぷり!?

こねて伸ばし、ゆでたものを一度全員で味見し(これだけで充分美味しいけど)、次にそれをめん棒でトントンついてから丸めたものを食べると「うわ、全然ちがう!」「こっちの方がモチモチして美味しい!」と驚きの声。しめしめ：こういう違いに気付いて欲しかったんです(笑)最後にみたらしのタレも作り、皆、家でも作りたいとレシピを持ち帰りました。ぜひ、作ってね。



↑グループで団子を作る 完成した月見団子↓



雲間から覗くお月さんとお供えの団子。背後には心地よい雅楽の調べ。

2019年度アンケート結果

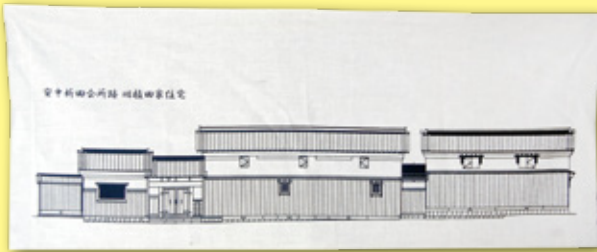
開館10周年と半年を経て

開館初年度から毎年実施していますアンケート調査ですが、当然のことながら、こちらも10周年を迎え、これまでに、のべ千人以上の方々にご協力をいただいています。施設の管理運営の参考になっただけでなく、忌憚のない意見や感想、励ましのお便りはスタッフのモチベーションにもつながっています。

昨年からは、いつものアンケート項目に加えて「おみやげ（ミュージアムグッズ）」に関するアンケートも行ない、その中には「絵はがき、文房具（消しゴム、メモ、クリアファイル等）、日用品（タオル、手ぬぐい等）」などが



過去10年分のアンケート用紙
(イベント分も含む)



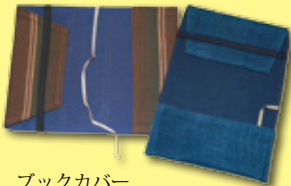
オリジナル手ぬぐい「植田家 立面図」



大津絵ポストカード（4種）



オリジナル手ぬぐい
「愛石の虎図」
(※タペストリー棒は別売)



ブックカバー



扇子入れ
(扇子付)



コースター



ペンケース

あれば欲しいという声が多く見られました。現在、旧植田家住宅では、「古布」を使用したオリジナルのペンケース、ブックカバー、扇子入れなど（いずれも八尾市内の社会福祉法人信貴福祉会「りんごの木」製作）のほか、「大津絵」の絵はがきをミュージアムグッズとして取り扱っています。あまり知られていませんが、時々お求めいただいています。また今年度は、アンケートと10周年を機会に、新しいグッズとして「手ぬぐい（2種類）」を追加しました。

ひとつは植田家の「立面図」をそのままデザインしたシンプルなもの、もうひとつは旧植田家所蔵の掛軸の中から、「十周年記念展示（後期）」にも展示した愛石の《虎図》が精巧に印刷された2種類を用意しています。いずれも限定品で、実用には「立面図」、インテリア用には「虎図」がお勧めです。

旧植田家住宅開館10周年と半年を経て、様々なことがありましたが、まさかのミュージアムグッズの宣伝を今回初めて行ないました。建物や歴史、展示、イベントで旧植田家住宅にお越しの際は、おみやげにぜひ植田家グッズをお買い求めください。

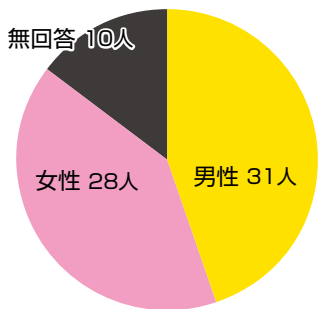
(指定管理者 NPO 法人 H I C A L I)

2019年度 利用者アンケート 結果

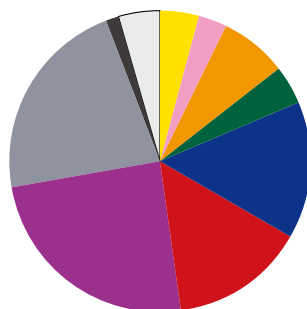
ご協力ありがとうございました。

期間 2019.5.25～9.1

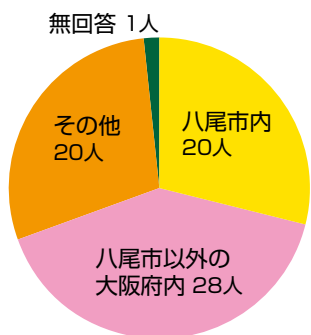
回答枚数 **69** 枚



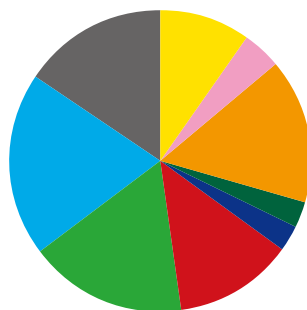
Q1. 性別？



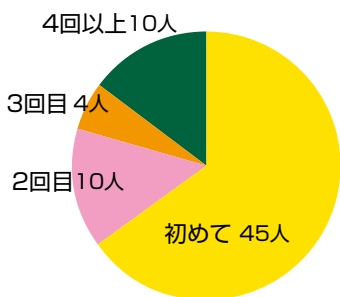
Q2. 年齢？



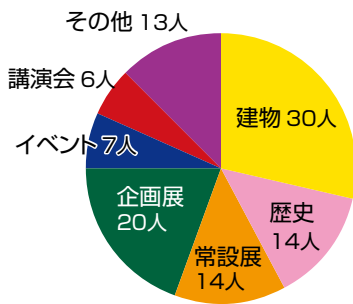
Q3. お住まいの地域は？



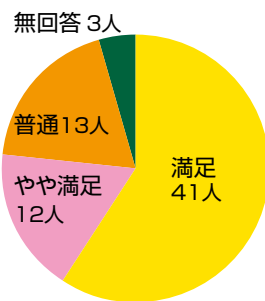
Q4. 旧植田家住宅を
何で知ったか？ (複数回答)



Q5. 何回目の来館か？



Q6. 来館した目的は？ (複数回答)



Q7. 展示について？

その他、意見・感想など (抜粋)

- 何度来ても又いろんな発見がありおもしろい！ (70代女性)
- 展示室が涼しかった。歴史についてしれた (10代男性)
- 大変良かった。昔の物、珍しくなつかしく拝見いたしました (80代女性)
- 解説ありがとうございました。感謝 (60代女性)
- 八尾市観光ガイドマップがあれば、貴館から次の地への歩きが便利になる (70代男性)
- とても満足しました。ありがとうございます (50代・女性)
- またイベントがあれば来たいと思います。今度はどんな展示物が見られるか楽しみにしています。(40代・女性)
- いつもゆっくりと出来る場所で、お庭も美しいです。友人と二人で、楽しんでいます。ありがとうございます (60代・女性)

入館無料

安中新田会所跡

旧植田家住宅

関西文化の日プラス



ちく おん き
蓄音機で

かい そ う ほう



想 法



旧植田家所蔵の大正時代の蓄音機を使って、

旧植田家所蔵のSPレコード(78回転)を再生!



令和元年(2019) 9月23日(祝・月) 土蔵1(民具資料室)にて

関西文化の日プラス

「蓄音機で回想法！」

かいそうほう

毎年11月に実施される「関西文化の日」(関西広域連合主催)が、今年はラグビーW杯と国際博物館会議(ICOM)京都大会の開催を記念し、「関西文化の日プラス」として9月に実施され、関西一円の博物館・美術館などの入館料が無料となりました。旧植田家住宅では、9月23日(祝)に設定し、同日「蓄音機で回想法！」を午前と午後の2回に分けて行ないました。

「回想法」とは、昔のなつかしい道具や音楽にふれることで当時を思い出し、それを語ることを目的とした心理療法の一種で、認知性予防の効果も期待できるとされています。今回は植田家の収蔵品である大正時代の蓄音機を使うということもあり、「懐かしさ」よりも「珍しさ」が際立ち、小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の参加がありました。また再生するSPレコードは持ち込み可能としていましたが、どのご家庭にも残っていないということでした。

貴重なレコード鑑賞会となったイベントでは、知らない曲がほとんどでしたが、童謡をはじめ、当時の流行歌、ポップスなどを通して、昔のくらしを想像することができました。

(旧植田家住宅スタッフ)

四会所だより (22)

平野屋新田会所跡の三方所が
大東市の史跡に



「三百年間の歴史の目覚め」

宝永元年（一七〇四）、大和川が付け替えられると、現在の寝屋川市南部と大東市や東大阪市北部に大きく横たわっていた深野池が新田として開発されました。深野池に出来た新田の経営拠点の一つであった平野屋新田会所屋敷は十年ほど前まで残されていましたが、現在は跡地の一部が大東市によって公有化されています。

今年三月、大東市は、「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」を市の文化財として史跡指定し、新たな年号の時代に保存活用を模索することになりました。これから市民の心を豊かにさせる史跡に出来るかが行政と市民に問われることになりました。その第一歩として、去る八月に市主催の市史跡指定記念講演

展示会

11月9日(土)～24日(日)

(※19日火曜日は休館)

場 所: 大東市立歴史民俗資料館

内 容: 市指定史跡「平野屋新田会所 千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡」や
周辺遺産と新田水路図等の紹介

見学会

11月24日(日) 13～16時

見学場所: 平野屋新田会所跡周辺

(13時～歴史民俗資料館集合・展示説明のあと出発)

■雨天決行

■展示会・見学会ともに無料

■お問い合わせ

- ・大東市立歴史民俗資料館 TEL072-876-7011
- ・平野屋新田会所市民サポーター会議事務局
大東市教育委員会生涯学習課
072-870-9105 (内線 75216)

会「未来につなぐ新田開発の遺産」が開催され、十一月には平野屋新田会所市民サポーター会議による「今よみがえる新田遺産物語Ⅱ深野池と会所・新田水路Ⅱ展」が行われます。
加賀屋新田会所跡・鴻池新田会所跡・安中新田会所跡とともに新田開発の歴史を語る場所としての活用が期待されます。
(平野屋新田会所市民サポーター 水永八十生)



平野屋新田会所道具蔵にあった大型踏車
(大東市立歴史民俗資料館収蔵)



船着場石段
(現在は地中に保存)



千石蔵礎石
(高さ3m)



●大東市立歴史民俗資料館

- ・大東市野崎3-6-1 (来ぶらり四条2階)
- ・JR学研都市線「野崎」駅下車。徒歩約10分
- ・9:30～19:30開館(第1・3火曜日は休館)

※「平野屋新田会所跡」はここではありません。

なにわの伝統野菜栽培日記

No.42

【黒いヤツら】

猛暑の中、やってきました「黒いヤツら」。

集団行動がよほど好きなのか、数匹仲よくトウモロコシに頭をつつこんでいた。

前号にも書いたが、いつもは2月に種をまき（ハウス育苗）、梅雨前に収穫するのだが、今回はとう害虫の多い適期になってしまった。

以前の私なら瞬時にフリーズ、別のスタッフにSOSだったが、人間というのはずいぶん図太いもので、なんと昨年(※)よりもさらに進化し、

素手にハサミでつまんでポイ!

って事で、トウモロコシは頭さえつっこまれたものの、ひと回り…いや、ふた回り半太くなった私と相棒の圧勝で収穫を終えた。

(※ 昨年はブカブカの極厚ゴム手袋使用で触った感を失くし、手づかみした)

.....

【もぐられっぱなし】

その後、新しい子どもも数名加わり、さらににぎやかな畑メンバー。9月初め、冬野菜の種をまいた。



新メンバーたちで冬野菜の種まき



自分の植えた場所に名札を立てる

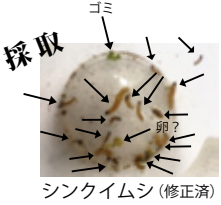
数日で本葉が出たものの、台風や続くゲリラ豪雨で倒れてへニャへニャに。なんとか立ち直らせ、復活したが、幼苗すべてにシンクイムシ(苗の真ん中の成長点にもぐりこみ、食いつくしてしまう厄介なやつ)が。一つ一つ針先ほどのソレをピンセットでほじくり出していく。しかし大量に産みつけられた卵がかえるのだから、また次の日も同じ

状態に。子どもでも狭い畝間に毎日体を縮め、しゃがんでの作業に腰痛憎悪…。でもこの作業をしないと苗が全てペアになる。

この野菜たちは、11月末に行われる人気イベント「旧家で食事会」で使われるものや、今から燃ゆる「田辺大根フェスタ」で優賞をいただく(はずの)大事な大事な大根ちゃんや、子どもたち一人一人が育てるMY大根も含まれる…。とはいえ、野菜作りはほとんどギツクリ痛いものだ。



大根の苗にシンクイムシが!



シンクイムシ(修正済)



一つ一つピンセットでほじくり出す作業に…

マンジーくん

安富士 暁

【神無月】(10月) かんなづつき

この時期、全国の神々が出雲大社(島根県)へ会議に出かけるため、各地の神様は留守になるといわれる。
(神無し月)

マンジーさん、
大家の浦島です。

マンジーさん、
集金です。

留守?
……

ただの
居留守
……

「植田家住宅のちよっとしたトビックス」

話題

植ちよぴ。(ックス)

◆夏のイベント

・「冷やし旧家、はじめました。」

|| 2019年7月13日(土)〜9月8日(日)

今年も暑い夏がようやく終わりを迎え、納涼企画「冷やし旧家」も、続く残暑の中、終了しました。今夏は特に厳しい連日の暑さに人通りも減りましたが、夏休み中の子どもたちや仕事の途中で冷やし旧家の看板を見つけたスーツ姿のお客さんが涼を求めて入館されました。意外に涼しい(でも実際は暑い)旧家、期間限定のラムネ、冷たい井戸水で足水体験など、

タイトルを含め少しずつ「冷やし旧家」が浸透してきたことを実感しています。



毎度おなじみのクルクル回る「冷やし旧家」の看板(手製)

・「夏のお茶会」(八尾高校茶道部協力)

|| 8月25日(日)

今年で4回目の開催となる「夏のお茶会」が、夏も終りに近い8月25日(日)に行われました。今回も地元八尾高校茶道部のみなさんによる「おもてなし」をいただき、午後1時30分開始予定のところ、30分前から多くのお客さんが



静かな時と空間が流れる夏のお茶会

来られたため、予定を少し早めて実施しました。計5席のお茶会には子どもも含め43名の参加があり、涼やかで静かな夏のお茶を存分に味わえた様子でした。

◆秋のイベント

告知

・11/2(土)〜24(日) 旧家で記念撮影く七五三

・11/13(水)〜24(日) 関西文化の日関連事業

・11/16(土) 植松灯籠の日(夜間開館)

※「ランプの灯りミニ展示」を同時開催

・11/29(金) 旧家で食事会

関西文化の日

◎ 11/16(土)・17(日)

安中新田会所跡 旧植田家住宅を含む

市内文化財4施設の入館料が無料になります。

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (三十六)

文・伊東健

NHKの大河ドラマ「いだてん」で主人公の金栗四三や語りの古今亭志ん生が青春を過ごす象徴的な場所として、浅草が描かれていました。

中でも、CGやセットで再現されたと思われる通称、浅草十二階、正式名称、凌雲閣が映された場面は印象的でした。関東大震災時に崩れることをそのまま小説のタイトルに冠した、今東光の「十二階崩壊」を思い出さずにはおられません。東光の言葉で、浅草十二階について解説してもらいましょう。

浅草に十二階というエッフェル塔まがいの赤練瓦造りの塔が凌雲閣と名乗って出来ると、はじめの頃こそ物見高い江戸っ児やお上りさんの赤毛布あかひつちが押しかけたものの、十二階の展望はわずかに富士山や品川しんがわの海が見え、頭くまをめぐらせば雲の下に筑波山が眺められるくらいのもので、その他は漠々たる坂東平野とあつては直ぐに飽きられて仕舞った。富士山なら、よく晴れた日の夕方など東京の横町からでも眺められたもの

で、ちつとも彼等にとつては興ある風景ではなかったのだ。十二階の経営者は苦しまぎれに各階を写真陳列室に当て、新橋芸者の写真を並べているうちに、洗髪のお妻の写真だけが聊いささか評判になつたくらいのもので、エレベーターの上り下りも江戸っ児を惹きつけるほどのものはなかつた。(十二階崩壊 昭和五十三(一九七八)年 一月三十日中央公論社発行より)

明治の眺望建築ブームに便乗した凌雲閣でしたが、明治末にはすでにかなり経営が苦しかったようです。東光はその頃の思い出も続いています。

僕は九歳の時、両親に連れられて浅草に行き、有名な十二階に昇つたが、ちつとも面白くなかつた。その上、芸者の写真が飾つてあるのに憤然とした母親は、一刻も早く出ましようとして外へ飛び出し、花屋敷などへ行つたが、余程、花屋敷の方が面白かつたのを覚えている。従つて十二階は寂びれる一方だつたが、その周囲に集つて来た銘酒屋は、明治、大正、昭和と世を重ねて繁盛し、その東京の恥部は東都名所の一つになつたのだから驚くべきことだつた。

(前掲書より)

大正時代になると歓楽街と化していた浅草十二階下で東光は、淪落の女を描く画家の秦テルヲとも出会います。後年、浅草寺伝法院で出家することなど想像もできないティーンエージャーの東光が十二階下を闊歩しつつ、川端康成が継承する「新思潮」への同人参加を打診されるのです。

僕は十二階の尖塔のあたり、傾いた月が蒼く輝くのを見ながら、文壇に出られるのもそんなに遠くないのではあるまいかとふと想つたりした。それはまさしく夢みたいな話だが、この十二階下の淫売宿から新しい文学が生れるかもしれないではないか。(中略)

そのまま寝入つて、ほっかりと目が覚めたら夜がほのぼのと明けそめていた。僕はまた窓を明けて眺めると、朝陽を受けた赤煉瓦の十二階の摩天楼が青い空に突きささるようになつて立っていた。その時、頂上にある望遠鏡がこちらを覗いているように見えたが、それは気のせいだつたかもしれない。(後略)

(前掲書より)

浅草十二階が象徴的な役割を果しており、東光の逝去により未完となつていますが、続きが読みたくなる青春小説です。

開館10周年

【2019年11月～2020年1月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

- ◎10月26日(土)～12月26日(木)
企画展「植田家でみる意匠(デザイン)」
※11/4(祝) ギャラリートーク(学芸員の立ち話)
- 同時開催11月13日(水)～11月24日(日)
関西文化の日「八尾高校書道部コラボ展示」
※11/16(土)・17(日)は入館無料
- 2020年
◎1月5日(日)～3月16日(月)
企画展「昔の暮らしシリーズ:住の道具」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



企画

(詳しくはお問い合わせください)

- 11月 ☆ 2日(土)～24日(日) 旧家で記念撮影～七五三～
□16日(土) 植松灯籠の日(夜間開館) & ランプのミニ展示
■29日(金) 旧家で食事会(夜間イベント)
- 12月 □ 2日(月) 開館10周年記念講座①資料の話(講師:学芸員)
■14日(土) こどもガイド体験講座(冬の暮らし)
□21日(土) すこし昔の暮らし体験「おもちつき大会」
- 2020年
1月 ☆ 5日(日)～26日(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～
□12日(日) 開館10周年記念講座②指定管理者の話
■19日(日) こどものためのお茶会
- NEW
☆1月12日(日)～3月1日(日) 冬限定企画「旧家で暖家支援」
☆9月13日(金)～3月15日(日)
河内の古民家めぐりスタンプラリー 開催中!



休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 December

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

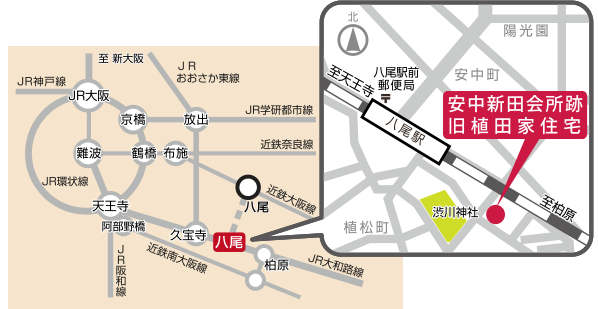
2020/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日: 火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料: 一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

「リピーターカード」
実施中(数量限定)

- お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など。
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX: 072-992-5311
E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp
- ※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



- ◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

